

平成 28 年度環境学習出前授業の実施結果について

平成 29 年 3 月 14 日

栃木県環境森林部廃棄物対策課

1 環境学習出前授業

廃棄物処理施設に対する理解促進を目的に、県内の小学校を対象に、県と関係団体で制作した「廃棄物処理施設紹介動画」等を活用しながら、廃棄物が資源として再び生まれ変わる様子や廃棄物処理施設の役割等を分かりやすく説明し、環境に優しい循環型社会の形成について学べる授業を行いました。

- ・対象：県内の小学校
- ・講師：廃棄物対策課、各環境森林事務所及び小山環境管理事務所職員等

2 実施結果

実施月	実施数	児童数※	実施市町
7月	8校 16クラス	459人	宇都宮市、栃木市、真岡市、矢板市、さくら市、那須烏山市、上三川町、高根沢町
9月	3校 5クラス	145人	小山市、大田原市、那須町
10月	4校 7クラス	189人	小山市、那須塩原市、下野市
11月	1校 1クラス	8人	宇都宮市
12月	1校 1クラス	13人	足利市
2月	1校 3クラス	98人	真岡市
合計	18校 33クラス	912人	14市町
4学年	11校 21クラス	616人	
5学年	7校 12クラス	296人	

※人数は、応募時のクラス在籍者数から算出

3 授業内容（45～80分）

(1) 座学「学ぼう！ごみを処理する施設」

ごみ（廃棄物）とそれを処理するごみ処理施設について、スライド及び動画を用いて授業を行った。授業では、家庭から出る生活ごみ（一般廃棄物）だけではなく、私たちが日頃使うものを製造する工場等から出るごみ（産業廃棄物）も私たちの身近なごみであること、また、これらのごみを適切に処理・リサイクルすることが環境保全や循環型社会の形成のために重要であることを説明した。

(2) リサイクル製品ゲーム (※60分授業以上の場合に実施)

廃棄物の種類、処理の方法、できるリサイクル製品を線をつなぐ「リサイクル製品ゲーム」を通じて、廃棄物を処理することでさまざまなリサイクル製品が作られていることを学んでもらった(グループ討議、発表)。

(3) 座学「ぼくたち、わたしたちにできること(3R)」と環境すごろく作成

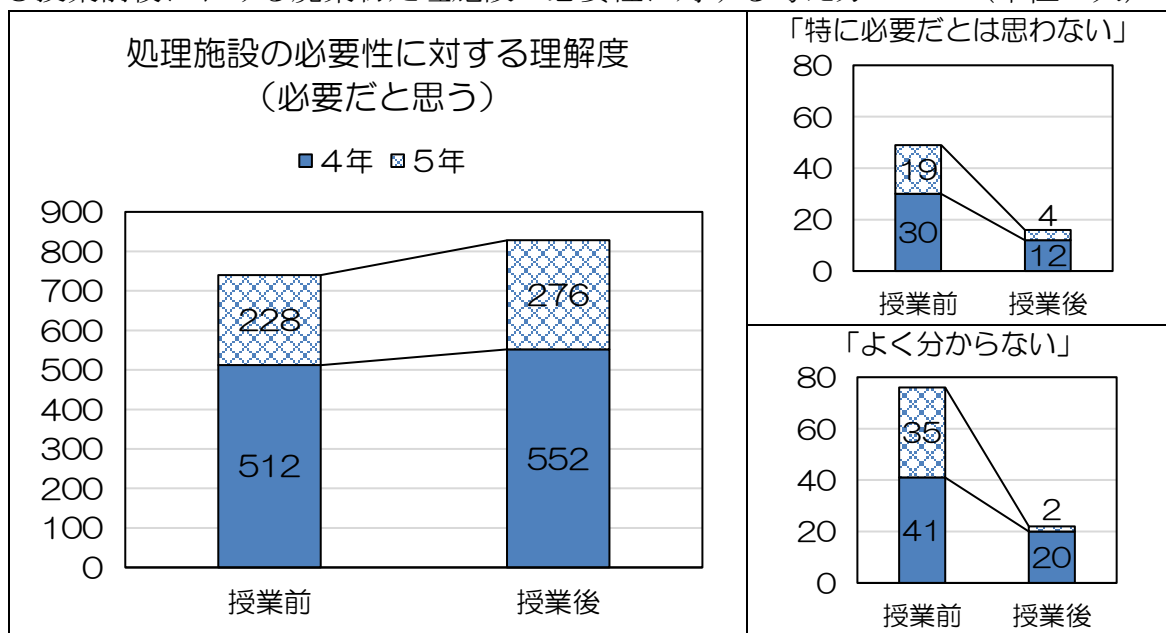
リサイクルのために、自分たちができることとして、3Rの取組を学んでもらった(授業時間により、「ぼく(わたし)の3R」を発表)。

また、環境すごろくを作成し、廃棄物の処理やリサイクルに関するマスを自ら考えることで、授業の振り返り学習とした。

4 授業後のアンケート結果

○アンケート回答数：18校33クラス866名

○授業前後における廃棄物処理施設の必要性に対する考え方 (単位：人)



○授業の感想

- ・いろいろなごみ処理施設があることが分かった。
- ・様々なものがリサイクルできると知った。
- ・ごみをこれからリサイクルしていきたいという気持ちになった。
- ・やはりごみ処理する施設は、必要だと分かった。
- ・環境を守ったり、資源を守るごみ処理施設は、生活に必要なだと分かった。
- ・ごみ処理施設がなかったら、町が嫌な臭いになったりすることが分かった。
- ・最初は単純だと思っていたごみやリサイクルが、今日の勉強で、未来の栃木にとっても必要なことだと思った。
- ・これまでも必要だと思っていたが、もっとごみについて知りたくなった。